

小学生に向けて災害科学の授業を行いました（2018/8/8）

テーマ：小学生新聞、科学コミュニケーション
場所：昭和女子大学キャンパス（東京都世田谷区）

今年度、小学生向けの日刊新聞・朝日小学生新聞における「実験・観察でわかる地球防災ラボ」と題したコーナーで、災害科学国際研究所（IRIDeS）の複数の教員が、災害科学をわかりやすく解説する記事をリレー連載しています（毎週水曜日掲載）。8月8日、「朝小サマースクール in 昭和女子大学」において、連載に関連するワークショップ「地球防災ラボ 特別実験教室」が開催されました（主催：朝日学生新聞、協力：IRIDeS）。リレー記事執筆者であるIRIDeSの岡田真介助教・川田佳史助教（災害理学研究部門）は、同ワークショップで実験をまじえた小学生向け授業を行い、4～5年生を中心とする小学生約30名が参加し、その保護者も聴講しました。

まず岡田助教が、活断層についての授業を行いました。写真や図を用いて「活断層ってなに？」をわかりやすく説明した後、子どもたちを班分けし、実験に入りました。子どもたちは、岡田助教が手作りした断層模型を実際に触って動かしながら、正断層・逆断層・右横ずれ断層・左横ずれ断層の違いや、プレートの沈み込みと断層の向きの関係などについて学びました。

続いて川田助教が、地震波について授業を行いました。地震波には2種類の波（P波とS波）があり、P波は速く伝わる縦波、S波はP波より遅く伝わる横波であることなどを説明しました。その後、子どもたちは班に分かれて、川田助教が手作りした地震波発生装置を使って、実際P波とS波を発生させ、観察しました。

岡田助教・川田助教はそれぞれ、こういった理学の知識とともに、子どもたちに知っておいてほしい防災知識についても説明しました。また、子どもたちが自由研究などで活用できるよう、実験装置を家庭で手軽に作成する方法も示しました。子どもたちからは、「実験が楽しかった」「おもしろかった」「よくわかった」などの感想が寄せられました。



実験の様子（断層模型）



実験の様子（地震波発生装置）



会場の様子



岡田真介 助教



川田佳史 助教

文責：中鉢奈津子（広報室） 岡田真介・川田佳史（災害理学研究部門）

写真：鈴木通江（広報室）